

新約聖書 ヨハネによる福音書 13 章 31 節—35 節（新共同訳）

³¹ さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。³² 神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。³³ 子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなただちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。³⁴ あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵ 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「互いに愛し合う」

バークレー・バックストンは、1890 年から日本で活動したイギリスの聖公会の宣教師です。バックストンは、本日の福音書の言葉をもとに、イエスの十字架の受難について、こう述べています。

「表面的なところを見れば、いま人の子は恥を受けると思われます。神もまたこの方によって恥を受けると思われます。けれども、私たちは信仰によって主の十字架の栄光を見ることができます。主は十字架の苦しみを恥と思われません。かえって栄光を見つけられました。

兄弟姉妹よ、私たちが神に導かれて恥と苦しみに遭わなければならないときには、どうかそのことにとらわれずに、十字架の栄光だけを考えて進んでください」。

本日の福音書の冒頭には、こう記されています。「さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。『今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった』（ヨハネ 13:31）。

イエスを裏切り、十字架に引き渡すために弟子の一人であるユダが出て行くと、イエスは他の弟子たちにこう言います。「今や、人の子は栄光を受けた」。人の子とはイエスご自身のことです。

「栄光を受ける」とは、「十字架につけられること」です。「今や、人の子は栄光を受けた」と過去形が用いられていますが、これは、やがて起こることが確実であるということです。十字架はもう目前に迫っている。それは、常識的・人間的に考えれば、はずかしめと敗北のしるしです。しかしイエスは、そ

れを栄光と勝利のしるしとして負うべきであるとの決意を、ここであらわしているのです。

「子たちよ」と、愛をもってイエスは弟子たちに呼びかけます。イエスは弟子たちに向かって、自分は今は共にいるが、しばらくして去り、弟子たちは自分についてくることができないと述べます。

「わたしが行く所にあなたたちは来ることができない」の「行く」とはイエスの死と、神のもとへの昇天を意味します（ヨハネ 13:33）。さらに、純真な愛の世界に入ることだとも言えます。「あなたがたはわたしを捜すだろう」（ヨハネ 13:33）。弟子たちは、キリストと共にいながらも、キリストの真の愛をまだ本当には発見していません。そうである以上、彼らはまだしばらくは愛を捜さざるを得ないのです。

無償の愛は、人間の可能性を超えて、キリストの愛によって励まされ、導かれたときに初めて可能となる神の賜物です。

無償の愛は、人間の努力や決意だけでは実現できません。弟子のペトロは、自分が死ぬことになってもイエスについて行く、と言ったことがあります。それほど熱意に燃えても、自分の身が危うくなったとき、彼は逃げました。かといって、人間には無償の愛ができない、という諦めで終わるのではありません。

無償の愛 —— この人間の力ではできないことが、キリストの愛に触れた時に、できるようにされるのです。

キリスト教的な愛は、根本的に一つの祈りの行為であると言えます。それは祈りと悔い改めによって成せることなのです。

愛とは、自己を失うことです。カトリックの司祭で、神秘家であるモーリス・ズンデルは「愛するとは、他者となること、他者のうちに住むことである。もはや自分自身ではなく、自分に属するのではなく、他者のものとなることである」と述べています。

このような愛はまさに、イエスの十字架によって顕わにされたものです。イエスが「栄光を受けた」と言うのは、その受難と十字架において己を与え尽くす愛を示していくからにほかなりません。イエスは、自己を完全な無とし、それによって「すべてを明け渡し、惜しみなく与える」愛をあらわしたのです。この世で愛があらわになるとは、愛である神が啓示されることであり、父なる神に栄光を帰することにつながります。

受難と死においてイエスは「愛そのものである神」と完全に一つになり、神が愛であることをあらわしました。

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」とイエスは言います（ヨハネ 13:34）。

親しいからといって、互いに愛し合うことが簡単にできるわけではありません。むしろ「近親憎悪」という言葉があるように、近しいがゆえにむしろ憎み合いや争いが起こりがちなのではないのでしょうか。戦事中、敵兵ではなく内輪の兵士が殺し合うことがたびたび起こっていたというのも、それを表しているでしょう。親しさが、愛に直結するわけではありません。それゆえ私たちは、まず自分たちの身近な人たちと愛し合うことが大切なのだと思います。

初めにお伝えした、バックストンが語ったイエスの十字架の受難は、「恥」という言葉が強調されています。「恥」というのは、その度合いにもよりますが、人間にとって極めて辛い感情だと思います。

これまであなたが生きてきた中での「人生最大の恥」と思えることは何でしょうか。

先ほどのバックストンの言葉の一部を、もう一度お読みします。「兄弟姉妹よ、私たちが神に導かれて恥と苦しみに遭わなければならないときには、どうかそのことにとらわれずに、十字架の栄光だけを考えて進んでください」。

そして、人間の「恥」の苦しみを癒し、救うものも、愛なのだと思います。

私たちが、主イエス・キリストの愛のもとに互いに愛し合いながら生きていけるように、祈りと悔い改めと共に、日々を歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたの御子は、己を与え尽くす愛によって、私たちに、互いに愛し合う生を与えてくださいました。私たちが、人間的な愛を超え、主の十字架の栄光を見て歩んでいくことができますように。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

新約聖書 使徒言行録 11章1節—18節（新共同訳）

¹さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。²ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、³「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行

き、一緒に食事をした」と言った。⁴そこで、ペトロは事の次第を順序正しく説明し始めた。⁵「わたしがヤッファの町にいて祈っていると、我を忘れたようになって幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天からわたしのところまで下りて来たのです。⁶その中をよく見ると、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。⁷そして、『ペトロよ、身を起し、屠って食べなさい』と言う声を聞きましたが、⁸わたしは言いました。『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません。』⁹すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない』と、再び天から声が返って来ました。¹⁰こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。¹¹そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。¹²すると、“霊”がわたしに、『ためらわないで一緒に行きなさい』と言われました。ここにいる六人の兄弟も一緒に来て、わたしたちはその人の家に入ったのです。¹³彼は、自分の家に天使が立っているのを見たこと、また、その天使が、こう告げたことを話してくれました。『ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招きなさい。¹⁴あなたと家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる。』¹⁵わたしが話しだすと、聖霊が最初わたしたちの上に降ったように、彼らの上にも降ったのです。¹⁶そのとき、わたしは、『ヨハネは水で洗礼を受けたが、あなたがたは聖霊によって洗礼を受ける』と言っておられた主の言葉を思い出しました。¹⁷こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨げることができたでしょうか。」¹⁸この言葉を聞いて人々は静まり、「それでは、神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのだ」と言って、神を賛美した。

新約聖書 ヨハネの黙示録 21 章 1 節—6 節（新共同訳）

¹わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなった。²更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。³そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、⁴彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」

⁵すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。⁶また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渇いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。」

教会讃美歌 151 番「ひとの目には」、320 番「しあわせなことよ」、198 番「主よめぐみもて」。